

# 有機水稻栽培における 効果的な除草方法の検討

12108098東福耕平 12108112彦坂重徳

## 背景

かつての水稻栽培は、化学肥料、農薬を多量に使い多収を目的としてきた。そのため、現在は環境や人体への影響が考えられるようになってきた。  
最近では消費者のニーズとして価格面だけでなく、安全面にも関心が高まり、農薬を抑えた有機栽培が注目されている。  
しかし慣行栽培に比べ収量が劣ることや雑草防除が困難であり、様々な除草法も試されているが、いずれも課題が残っている。

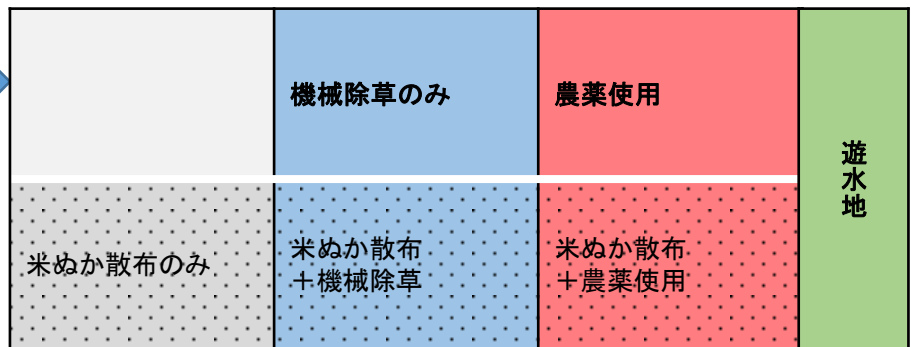
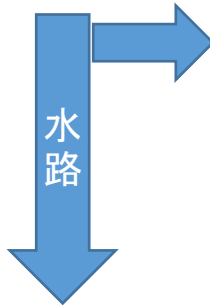
## 目的

安全面を考慮し農薬を使わない有機水稻栽培を行っていく上では、除草、コスト面、労力に課題がある。



有機水稻栽培において様々な除草方法の組み合わせ別に雑草量及び収穫量等を比較することで、最も効果的な除草方法を検討する。

## 試験区概要



## 調査項目

1. 土壌分析
  - ・ イオンクロマトグラフ
  - ・ SFP3→土壌成分と収量及び雑草量に関係
2. 雑草量
  - ・ 自然乾燥(種類に分けず)後、乾燥重量測定
3. 収量
  - ・ 粳重量
  - ・ 玄米重量
  - ・ 粳ワラ比
4. 有機農家へのヒアリング  
→取り組まれている有機農法の現状とその課題

耕起の様子



| 12月～3月            | 4月  | 5月        | 6月                  | 7月～9月                | 10月                  | 11月         |
|-------------------|-----|-----------|---------------------|----------------------|----------------------|-------------|
| 畦づくり<br>冬耕起<br>測量 | 春耕起 | 代かき<br>入水 | 中間除草<br>深水管理<br>田植え | 発育観察<br>雑草採集<br>土質調査 | 雑草量・収量計測<br>脱穀<br>収穫 | 土壌分析<br>粳摺り |